

自己評価及び外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の目指すところは年度初めにスタッフ全員で作成し共有している。それに沿った個人の役割を掲げ取り組んでいる。	管理職、職員全員で事業所の目標を作り、さらに実現のために個人目標をつくり全体で努力していることがわかる。	定期的な職員研修の実施で介護理念に対する理解をより高めていくことを希望します。臨時又嘱託職員に対しての周知に努め全員の協力体制の充実に努めましょう。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事に出掛けて行ったり近所付き合いに努めている。出掛けた先では声を掛けて貰う事が多くなっている。	地域の方たちとの関わり合いが年々深まっており、施設の行事などにも老若男女を問わず広く参加していただいている様子がわかる。子供たちや地区の保育園とのかかわりも良好で開かれた施設になっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の家族を持つ近隣の方から電話を貰う事もあり、サービス機関の提案や対応方法を助言することもある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	参加者からはそれぞれの立場からの意見を貰い、違った視点や気づきを得られている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議が開催されている。行政の参加は少ないが地域の役員や、家族の方も交代で参加して行事への参加のきっかけにもなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	困りごとがある場合は、担当者に相談出来る関係作りが出来ている。	必要に応じて地域包括支援センターに聞いて活動している。他施設の運営状況について知りたいが行政からの情報はあまり得られず、ヒヤリハットについて、行政の聞き取りがあった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所の周りの交通量が多い事や防犯の為に玄関は施錠している。利用者の安全確保以外の拘束は無い。	組織としてのマニュアルがあり、これに従っている。又内部研修などでマニュアルに沿って学習している。外部侵入を防ぐために、玄関の策は施錠しているが、基本的に拘束はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体的な虐待以外にも言葉・精神的な虐待があることを認識したケアに職員全員で取り組んでいる。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中に成年後見制度を利用している方がいるので、学ぶ機会があり必要な時に活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項の説明書を使用し利用者、家族の不安や疑問の無いよう説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議ではなるべく多くの家族に参加を願ひ意見や要望を発言して貰う機会を設け、運営に反映させている。	家族会はないが、運営推進会議には必ず来ていただくよう声掛けをして、参加してもらっている。来所していただいた家族への声掛けと要望の受け入れについては細かく対応しており、記録に残している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議には意見や提案を活発に出す機会があり、日頃からスタッフの意見や提案を受け入れる体制づくりと雰囲気がある。	月1回のスタッフ会議では熱心な議論がされ、利用者対応、サービス内容についてなど改善のきっかけとなっており、職員関係についてもなんでも話せる雰囲気作りができています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期昇給や資格手当制度がある。休憩室には予めからの懸案であったエアコンを設置した。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	体制上、なかなか研修にいく事が難しいが参加した場合は皆で共有出来るようスタッフ会議等で学習したりしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年度は法人内に新しくグループホームが出来、研修の受け入れや情報交換をする中でお互いのサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新しい環境で生活する利用者の立場に立った姿勢で対応し、不安な事や困りごとが気軽に言えるようコミュニケーションを密にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居間もない利用者家族には様子を頻繁に伝えるようにしている。不安や思いをこちらから伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず不安を聞き取り、家族・利用者と共に何が一番に解決すべきなのか一緒に考えサービスに反映している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理や裁縫、畑作り等教えて頂けることが多く勉強させて頂いている。戦争体験者の話が聞けるのは幸せな事である。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族には事業所の活動に参加して頂くと共に、困った事がある場合は在宅での様子を伺うなどして支援のヒントを貰うようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者のつづやきを代弁したり生活の様子を伝え、自宅への外出や家族との交流の機会を持って貰えるように勧めるようにしている。	伝達ノートを用いて、利用者の要望、思いを職員全員で共有できる仕組み作りができています。利用者の希望を受け入れて、帰宅、墓参り、外食への同行など寄り添っている姿がわかる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方やそうでない方との調整や身体レベルの違いもある中で利用者同士の関わりが良好になるよう職員が間に入ることもある。出来る方が出来ない方の面倒を見てくれる場面もある。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お便りを出したり、行事のお誘いをし関係性を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケア計画を立案する時は本人の希望ややりたいことの意向を聞いている。意向が聞き取れない場合は家族の意向も聞いたうえでスタッフ会議で検討している。	日ごろの信頼関係の中で利用者の気持ちを正確に把握しケア計画を策定している。十分に把握できない場合は家族と相談し、スタッフ会議で充分議論してから策定する仕組みができています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人に聞ける場合は日頃の会話の中で聞くようにし、そうでない場合は家族に聞いている。聞いた情報はカルテに綴り皆が共有出来るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子は生活記録に記し利用者の心身の変化や状況の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア計画の見直しや立案は本人や家族の思いを伺い、反映出来るようスタッフ会議で検討しその思いに沿ったケア計画を立案している。	半年に1回は、実施状況と達成の評価をし、家族に説明している。その時に家族や本人の思いを十分聞き、スタッフ全員で話し合って計画、立案している。特に利用者の行為の意味などについて掘り下げて考えている。	職員体制について無理、無駄、むらがないか定期的に確認しながら気持ちよく業務ができるようさらに努力を重ねていただくよう希望します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア内容は毎日の生活記録で確認している。利用者の変化やつぶやきがケア計画に反映されるような視点で記入するように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	お墓参りや法事への帰省。家族との誕生会に参加支援など出来る限りの要望に応えられるよう努めている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方の行事参加や定期的なボランティアの来所で大きな刺激を貰っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日常は協力医療機関に支援を受けているが専門医は以前からのかかりつけ医を受診することもある。家族が対応出来ない時は事業所で受診の支援をしている。	基本的には同じ組合の医療機関の主治医にお願いして、月1回往診してもらっている。歯科についても同様で、専門医(整形外科、眼科)については以前からのかかりつけ医などに通院してもらっている。職員介助、家族介助両方の場合がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護の訪問に当たっては、1週間の変化や相談事項を送りノートに記している。相談事項は継続して報告するようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、頻繁に面会に行き病院関係者から情報を得るようにしている。退院の時期の調整や入院生活が長くなるリスクも踏まえ出来るだけ早期の退院となるよう退院後の準備も行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時には終末期の支援方針を説明し署名して頂いている。時期が来て状況や家族の意向が変化することもあるので、その時々で話し合いをするようにしている。	入所時に終末期の対応について書面で了解を得ているが、状態の変化に伴い、本人家族と話し合いこれを記録に残している。成年後見人の擁立などまだ十分でないところがある。	医療、看護体制については整っているが、終末期の刻一刻と変化する利用者に対しての支援について家族と常時話し合い、約束事の確認をしつつより精度の高い看取りを目指してください。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急や事故発生時の対応方法や通報のマニュアルを事務所に貼って周知している。AEDを設置し学習会を行った。近隣の方にも使って貰えるよう玄関に明記した。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣住民の参加する避難誘導訓練を行い隣組の支援を貰えるような協力体制を築いている。	火災の危険は少ないが、火災を想定した避難訓練を年2回は実施している。近所の人たちのリレー伝達で訓練に集まってもらっていることは評価できる。ポータブル発電機の緊急使用は難しいのでストーブ、防寒シートの設置をしている。	常に近所の方たちの協力が得られるようこれからも努力されることを希望します。

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しくなっても馴れ馴れしくならず、年長者であることを念頭に置き、敬いの気持ちを持った言葉掛けや対応に努めている。	利用者さんの一番輝いていたときを考えて、そのプライドに寄り添い、敬いの気持ちをもってケアすることを心がけている。丁寧な言葉で話すよう心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	やりたいことや思いが引き出せるよう、会話を大切にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の時間も大切にもらい、やりたいことがある場合は皆で行うような事を強要しない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時は衣類選びを一緒に行っている。必要な場合は一緒に買い物に出掛けるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものをお聞きし、なるべく好みに沿った食事の提供に努めている。安全に留意しながら職員と一緒に調理したり、盛り付けや配膳、皿洗いもやっけて頂いている。	メニュー表中心というより、利用者の食べたい物を中心に献立を決めている。レベルに応じて、刻み、ミキサー食を提供している。現在2人は配膳調理片付けの作業ができるので積極的にお手伝いしてもらっている様子が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事チェック表によって食事量や水分量の把握をしている。水分がなかなか進まない方は好きな飲み物を提供し、各食1杯から1,5杯以上は摂って頂くよう勧めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯は毎日洗浄剤で洗浄している。自分で行えない方は、声掛けしたり仕上げ磨きを行っている。		

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	全員の方がトイレで排泄が行えている。尿意のはっきりしない方は様子を観察しながらトイレに誘うようにしている。	ほとんどの人がリハビリパンツと、パットを使用しているが、布パンツとパット使用の人は自分で用足しができるので見守り、昼間は全員がトイレで排泄している。夜はポータブル使用の人が2人いるが、排泄の自立支援の努力が見られる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取に努め、牛乳は毎日提供している。排泄チェック表を元に排便間隔を確認し、適切な姿勢、適切な処置も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴の頻度は大体決まっているが、その日の体調やその方のご気分に沿って入浴の支援をしている。入浴剤などの使用で視覚や嗅覚の楽しみも工夫している。	リフトが設置されて、重度者2人についても安全に入浴してもらうことができるようになった。風呂は遅番の人が介助するようになっており、大体週2~3回の入浴回数になっている。入浴拒否者に対しても様々な工夫がされて定期的に入浴していることがわかる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は一人ひとり違って、早く休む方やテレビを見て自分のペースに合わせた時間で休む方も居る。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	夜勤者が次の日の1日分をタペストリーに組んでいる。薬局から届いた薬は薬剤師の指導を受け、スタッフ全員が内容を理解することで薬箱に1か月分を収納している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	居室でちょっとしたおやつを食べる方や男性利用者の中には晩酌をする方もいる。好みに合わせたDVDを鑑賞する方もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候に合わせて近くへの散歩も行っている。善光寺参拝や外食行事には家族や地域のボランティアさんに付添をお願いし一緒に出掛けている。	天気のいい日は散歩に出かけている。最低駐車場への往復の他に日吉神社往復などしている。又リング狩り、善光寺、権堂の七夕祭りなど全員で出かけており利用者の励みにもなっている。他に利用者の希望で外出支援もしている。	

グループホーム栗田ゆうゆう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>外出の時はお小遣いを持って出掛けたり、定期的に通帳の記帳に出掛け金銭の管理をしている方も居る。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取り次ぎや手紙、葉書の等の用意をし家族や大切な人との繋がりを絶やささない支援に努めている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>整理整頓に努めている。季節の花を利用者さんに活けて貰う事もある。次亜水の噴霧器を設置し感染予防に努めている。</p>	<p>南側は日当たりが良く、利用者が花を活けたりできる空間がある。遅番がトイレや手すりなどの消毒を行い、夜勤者が廊下や室内を消毒している。全体に整理整頓がされていて問題はない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングのソファーには馴染みの利用者が座り、思い思いの時間を過ごしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には自宅から家具やテレビなどを持って来て貰い、自分の空間を持って貰えるようにしている。</p>	<p>個室には利用者がそれぞれ自宅から持ってきたものがセッティングされその人らしい居室づくりがされている。全室次亜塩素水の噴霧器が設置され、風邪、インフルエンザ、匂いや感染予防などの対策がされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置やベット環境を整えて安全に立ち上がりや歩行が出来るよう工夫している。ウォーカーを使用している方は直ぐに使用出来るよう設置している。</p>		